IATDMCT＆SFPT 2026 に参加して

薬学研究科　薬学専攻
博士課程　4 年次生
S.M

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受け、2026 年 9 月 27 日から 30 日にわたりフランス（レンヌ）で開催された International Association of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology IATDMCT and the French Society of Pharmacology and Therapeutics (IATDMCT＆SFPT 2026)に参加し、自身の研究成果を発表しました。

２. 学会について

IATDMCT & SFPT 2026 では、「Precision Medicine: Moving from Legend to Reality」をテーマに、IATDMCT と SFPT による初の合同学会が開催されました。薬理学や臨床毒性学を専門とする研究者をはじめ、医師、薬剤師など、さまざまな職種の専門家が世界各国から集まり、Precision Medicine（精密医療）に関する知識の発展と医薬品研究の推進に向けて、活発な議論が行われました。会場は、ジャコバン修道院コンベンションセンターで、すぐ隣にはサントーバン教会があり、中世の趣を感じさせる歴史的な建造物が立ち並ぶ場所に位置していました。会場内は日本の施設と同様に現代的な内装でしたが、建物の中央には中庭があり、歴史的な建築と現代的な空間が融合した、非常に印象的な会場でした。



エントランス



会場外観



会場内



中庭

3. 学会の様子

1 日目は、IATDMCT Awards を受賞された先生方の講演を聴講し、日本の先生も受賞されていました。基調講演では、今後の展望などについて講演された後、ミュージカルのような歌やダンスが披露され、最後には会場全体がスタンディングオベーションとなり、大いに盛り上がりました。その後、会場内のホールで Breton Welcome Reception が行われました。立食形式で、参加者同士が自由に交流するスタイルとなっており、日本の先生

方だけでなく、海外の研究者の方ともお話しすることができました。

同日には、IATDMCT の若手研究者が毎年学会開催に合わせて行っている交流会 Young scientist night out にも参加しました。フランス、インド、ノルウェー、アメリカなど様々な国やバックグラウンドを持つ若手研究者が集まり、自身の研究内容や趣味、それぞれの国のおすすめなどについて話し、ボードゲームも一緒に楽しみながら交流を深めました。中盤からはカラオケも始まり、皆で歌って盛り上がるなど、国籍を超えて親睦を深めることができ、非常に有意義な時間となりました。

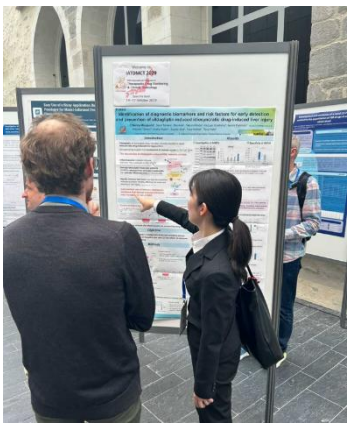


Welcome Reception



Young scientist night out

私は、「Identification of diagnostic biomarkers and risk factors for early detection and prevention of vildagliptin-induced idiosyncratic drug-induced liver injury」のタイトルでポスター発表を行いました。発表は、1 日目と 2 日目の Lunch・Coffee Break に計 3 回説示時間が設けられ、食事をしながらディスカッションするカジュアルな形式でした。事前に繰り返し発表練習をしたことで、自身の研究内容を概ね伝えることができました。一方、質疑応答では、質問を一度で理解できず、回答に時間がかかる場面もありました。質問を聞き返したり、何とか伝えようと話したりすることで、相手の方も親身になって理解しようとしてくださり、最終的には自分の意見を伝えることができました。また、フランスでファーマコビジランスに携わる方とのディスカッションでは、私からも質問をすることで、フランスでの副作用の現状や医薬品開発における薬剤性肝障害予測の重要性などについて意見交換する機会も得ました。研究内容を伝えるだけでなく、相手の研究や考えについて質問し、意見を交換できたことは、大きな学びとなりました。今回の発表を通して、自身の研究の課題を再認識するとともに、より高いリスニング力や表現力があれば、さらに深い議論ができたと感じました。この経験生かし、今後さらに英語力を磨き、海外の研究者ともより積極的に議論できるようになりたいと思います。

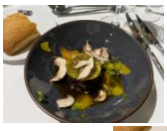


ポスター発表の様子

他の研究者の方々の発表も聴講し、PK/PD や TDM、薬物・サイトカイン簡易測定方法の開発など、臨床に則した内容が多くありました。自身の研究にも関連する免疫チェック

ポイント阻害薬に関する講演も複数あり、新しい知見を得ることができました。また、自身の専門分野以外の発表や講演にも参加し、特に分野が異なる内容は理解することが難しかったですが、臨床現場が抱える課題や最前線の研究内容を知る貴重な機会となりました。幅広い分野の研究に触れることで、自身の研究を異なる視点から考えるきっかけにもなりました。

2 日目の夜は、日本の先生方と Gara dinner に参加しました。大きなホールで、フレンチ料理をいただきました。楽器演奏で始まり、終盤には DJ の方が来てステージ前で音楽に乗って踊るという時間があり、非日常的な時間を過ごしました。



Gara dinner の様子

4. 開催地について

レンヌは、石畳の道やカラフルな木組みの建物など、日本とは異なる街並みが広がっており、フランスの歴史や文化を身近に感じました。広場では学生が楽器を演奏していたり、テラス席のあるカフェやレストランが多く、昼はゆったり、夜は賑やかな雰囲気が印象的でした。また、レンヌはモンサンミッシェルを訪れる際の経由地でもあり、今回の学会のロゴにもモンサンミッシェルのイラストが使用されていました。学会の合間に実際に訪れることができ、海に囲まれた壮大な修道院の姿に圧倒されました。長い年月をかけて増築や改修が繰り返され、現在の壮大な姿になったと知り、実際にその場所を訪れることで、歴史の重みを実感することができました。


レンヌの街並み


クレープ


モンサンミッシェル

5．最後に

国際交流基金の助成により IATDMCT & SFPT 2026 に参加し、ポスター発表やさまざまな交流イベントに参加することができました。今回の発表を通じて、自身の研究成果を英語で伝える難しさを実感した一方、さまざまな国の研究者と直接お話しすることがで

き、日本の学会では経験できない貴重な機会となりました。特に、若手研究者と交流し、親交を深めることができたことは、とても価値のある経験となりました。

本学会で得た知識や経験を自身の研究にも生かし、今後も語学力やコミュニケーション力を磨きながら、国内外を問わず積極的に研究成果を発信し、活躍できる研究者になりたいと思います。

今回、このような貴重な機会を与えてくださった加藤隆児教授をはじめ、薬物治療学Ⅰ研究室の先生方、ならびにご支援いただいた多くの方々、そして国際交流事業をご助成くださった大阪医科薬科大学国際交流基金に、心より感謝申し上げます。